

多文化共生のまちづくり

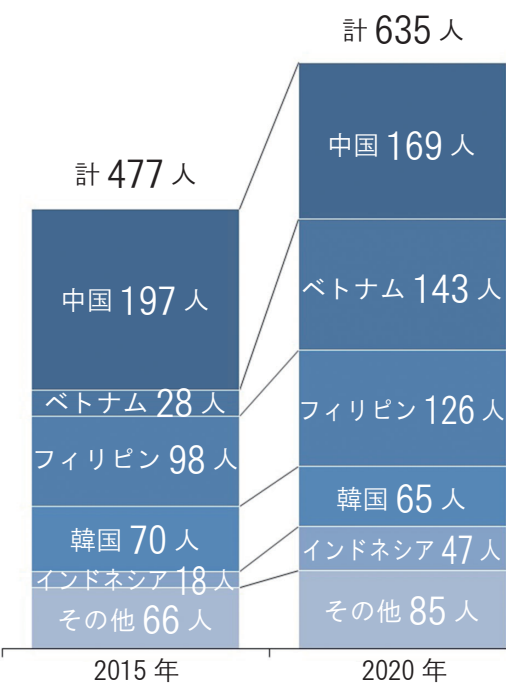
国籍や民族などの異なる人々が 互いの文化的な違いを認め合い
尊重し合いながら 暮らしていくことのできる 社会の実現を目指して

現在、市内に住む外国人は635人（2020年12月末）で、5年前に比べ1.3倍に増加しています。中でもベトナム人が5.1倍、インドネシア人が2.6倍と急増しています。これは市内の事業所で技能実習生（※）の受け入れが増加しているため、在住外国人数は今後も増加していくことが予想されます。

こうした流れを受け、市では外国人も暮らしやすいまちづくりを進めるため、市国際交流協会と協働で、行政書士など専門家による相談会や日本語教室の実施、交流の場としての生活支援カフェの開催、医療機関からの依頼に応じた医療通訳ボランティアの派遣、多言語によるラジオ放送や情報誌の発行など、数多くの取り組みを行っています。

また、地域が一体となって多文化共生社会を実現するため、本年度は地区振興会や防

市在住外国人 国籍別人数の推移



① 定期開催している日本語教室 ② おしゃべりカフェで日本文化を体験 ③ 医療通訳者養成研修会。病院の受診をサポートするボランティアを養成

使ってみよう！やさしい日本語

「やさしい日本語」とは、普段の日本語よりも簡単で、外国人にも分かりやすい日本語のことです。災害時に素早く情報を伝えることを目的として考案されましたが、現在はさまざまな分野に広がっています。

【ご記入をお願いします。】をやさしい日本語にすると・・・ **書いて ください。**

【直ちに高台へ避難してください。】をやさしい日本語にすると・・・

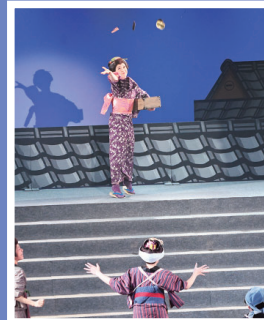
いま 高い ところへ 逃げて ください。

ポイント ①漢字にはルビを振る ②難しい言葉は避ける ③一文は短く簡潔に ④文節に分け、間に余白を入れる

<今月の表紙>

第13回奥州市民☆文士劇 女ねずみ小僧

1月30・31日、第13回奥州市民☆文士劇が江刺体育文化会館（ささらホール）で上演されました。悪人から盗んだ小判を貧しい人々にばらまく女ねずみ小僧の、教養な生い立ちや恋模様などを描いたオリジナルの脚本。キャスト・スタッフの人数制限や距離を意識した演出などの感染症対策を講じながらも、それを感じさせない熱演で観客を魅了しました。



Public Relations Magazine Oshu City

2021.2 Vol.180

広報おうしゅう
令和3年2月号

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 多文化共生のまちづくり
- 4 新型コロナウイルス感染症関係の情報
- 6 【特集】安全な水を、お届けするために
- 10 公共施設の使用料と減免基準が変わります
- 12 わたしの生き方ノートがより身近に
- 13 思いをカタチに 地域づくりの輪
- 14 成人式 グラフ
- 15 街diary
- 16 ILC希望のひかり
- 市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 17 まなびの里
- 18 もっと安心 ずっとおうしゅう
- はい、こちら総合相談室
- 19 子そだて広場
- 20 インフォメーション
- 24 奥州遺産



調味料やインスタント麺などが並ぶ店内。人気商品はナンブラーとハム

88

ホアン ティ
キム トウイ さん(45歳)

=江刺豊田町一丁目=

日本で頑張る若い人を故郷の味で応援

「ベトナム人にとって、ナンブラーは日本のしょうゆのようなもの。食卓には欠かせません」と話すのは、ホアン ティキム トウイさんだ。結婚した20年前は市内にベトナム人がほとんどいなかったが、ここ数年で急増。「日本の料理もおいしいけど、故郷の料理が食べたくなる」という声に応えたいと、昨年6月にベトナムの食材専門店「THDベトナムショップ」を開いた。以来、SNSを中心に口コミが広がり、地元はもとより市外からもベトナム

人が来店するようになった。「お客さんと話すのが楽しい。あまり人にはついていない若い人にはついていって」と笑う。食材が増えたおかげで、自身もベトナム料理を作る機会が増えた。お世話になった人や常連客を招き、手料理を振る舞うことも。

旅行が好きというトゥイさん。店名のTHDは、ベトナムのダナンで夫と経営する「タビー（旅ホテル）」を表している。「コロナが落ち着いたら来てもらえるように」と照れくさそうに笑った。



ほあん てい・きむ とうい
© 1975年、ベトナム フエ生まれ。結婚を機に奥州へ。ベトナムの食材専門店で営む。医療通訳ボランティアの経験も。夫と娘の3人家族。